

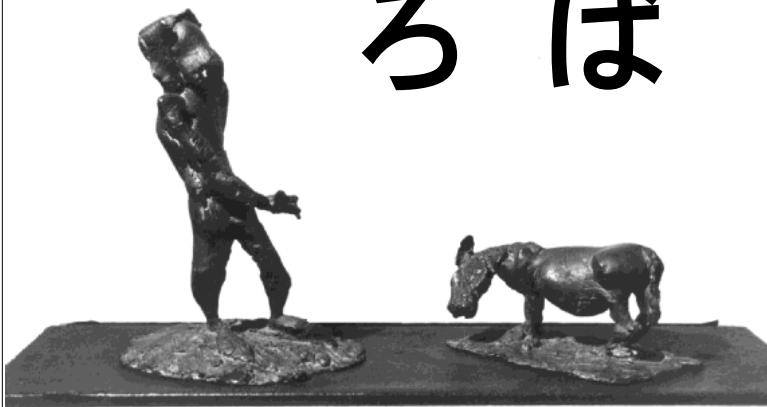
百人町教会

集会案内

礼拝：毎週日曜 午前10時30分
 於 東京家政専門学校2階
 聖書研究会：第1・3水曜 午後7時半
 於 Zoom
 連絡先：〒162-0066 東京都新宿区
 市谷台町14-1-701 賈晶淳 方
 TEL/FAX 03-6273-2930
<http://www.hyakunincho-church.com>
 郵便振替口座：00180-8-565379



ろば



私の目線(九一)

母とドライブ

上田 悌嗣

このあいだ田舎に帰省して軽自動車借り、母と一緒にドライブしてきた。ドライブといってもどこか遠くに行くのではなく、人口が六万人の市内を取りとめの話しながら、ぐるぐると何周もまわるだけだ。あの店はまだあるんやね、とか、あそこは更地になったね、とか。母と私の記憶が重なり合ったり、まったく別のところに飛んだり、この軽自動車のように、ぐらぐらと二人の共感が揺れた。そして、「あの時代はこんなことが楽しかったね」と言い合った。当然のことながら、母の楽しかったことと、私の楽しかったことは違っていたけれども。

ドライブの信号待ちのとき、ふと市立病院の病室を見上げたら、点滴と白い天井がチラリと見えた。誰かがベッドの上で点滴を受けているのだろう。いまこちらからあの病室の天井を見ているけれど、点滴を受けている人もいま同じ天井を見ているのかもしれない。昔私は生まれ育ったこの町で調子が悪くなると寝込んだとき、一日中天井ばかり見ていたときがあった。いつもなら気にならないような小さな天井のシミとか、天井の木目とか、自分でも飽き飽きするほど見つめながら過ぎし、「病気になるよ、天井を見続けなければならぬ」ということを思い知らされたものだった。もし天井に素敵な絵が貼ってあった

り、映画のスクリーンなどがあつたら、どんなに退屈しないで済むだろう、などと考えるりもした。

でもあるとき一度だけ入院したとき、隣りのベッドで寝ている人をみてみると、同じように天井を見つめている。私はこの人と天井で結ばれてるんだと何となく共感を持ったものだった。天井というのは、見るためにあるのではないのに、見続けなければならぬときがある。

そんな出来事を話していると、ポツリと母が「わたしもいつなんどき天井を見ながら消えてしまふか分からない」と言った。母は今年で九六歳だ。でもそんなことを言ったら、私も分からないと言いつ返した。おっさんというか、むかしで言えば相当な歳だ。視力〇・一の目は、もうよくならないだろうし、一本の白髪は、白くなつたり黒くなつたり優柔不断をくり返ししながら、ある時期を境にもう黒くならなくなった。こうやってふるさとで自分の可能性をあこれ探していくと、もうおまえの可能性はないのだよ、というメッセージと、何とんでもこの時代を生き抜くというメッセージが同時に流れてくる。

母は車内で「手が冷たいね」と私に聞いた。「東京で働いていると病んで冷たくなつてくるんや」と私は答えた。答えてからまずかつたかな?と思つた。余計な心配をかけてしまふ。しかし、母の手は温かかった。温かいものが一気に私へ流れたような気がした。

政治と宗教

歴代誌下二八・二八一―二九・一一

賈 晶淳

小学館から出た『忘れられた殉教者』という文庫本があります。大分前に読み終えた本ですが、今回証詞の参考にするため必要なところだけ読み直してみました。タイトルだけ見ますとキリシタンの話のようですが仏教の話です。日蓮宗の一派である「不受不施派」の弾圧の記録です。不受不施というのは日蓮上人の教えに従って法華経を忠実に実践していくための思想でありました。法華経を認めない者には供養せず、布施を受けないという立場です。この不受不施派が誕生したのは豊臣秀吉の時代です。秀吉は天下統一の一環として当時武力を持っていた農民と僧侶の集団を解体する目的で京都方広寺の竣工の時（一五九五年）に仏教の諸宗派から大勢の僧侶を参加させ、「千僧供養」という開眼供養を開きます。この時日蓮宗の本山である京都の妙覚寺では秀吉からの供養参加への要請を受け入れるかどうかで賛否が分かれ、反対する側が離脱して不受不施派となります。その後、一六一二年キリシタンと一緒に禁止令が出され迫害を受けるようになりますが、その解除もキリシタンと同じく一八七一年です。ただ彼

らはキリシタンと異なり、迫害を受けながらも幕府に絶えず訴えに出る行動をとりました。今日お話ししたいテーマは「政治と宗教」

です。今日は衆院選の投票の日であり、プロテスタント教会では宗教改革記念日でもあります。このような日に政治と宗教を合わせて考えるのも意味があると思ひまして選んだテーマです。戦後の日本の政治がなかなか変わらない理由について大分前から疑問に思っていました。そして、それを日本の宗教史と関連して考えてみることにしました。

宗教というのは個の集まりですが、時には集団として権力と同等な力を持ち、共助と牽制関係を繰返して来た歴史を世界史や聖書から学びます。例えば、聖書のモーセ五書には（律）法や制度について、また預言書には政治への批判や改革への言葉が書かれています。近現代における欧米の政治はその法的根拠や制度発展とその改革にも、聖書やキリスト教の影響を否定することはできないと思ひます。それと逆に宗教を徹底的に否定して来た政治史もあります。旧ソ連を始めとする社会主義国家の制度がその一つです。それでは日本の宗教史の中で政治と宗教はどのような関係であったのでしょうか。また宗教はどれほどの影響力を持っていたのでしょうか。

今日の聖書個所の背景となる時代は紀元前八世紀末、北イスラエル王国がアッシリアに滅ぼされた前後になります。南ユダ王国は侵略を免れ、アハズ王とその息子ヒゼキヤ王が統治した時です。そこには親子間の王権交代が書かれています。よく見ますと親子が取って来た政策が正反対の形をとっていたのが分かります。父アハズ王は神に反する政策を、

子ヒゼキヤ王は神に従う政策を取っていたという事です。親子間にどれほどの政策の違いがあるかが書かれています。この時にアハズ王はアラムに頼り、アラム（現・シリアのダマスカス）の神を信仰し、エルサレム神殿の祭具をすべて破壊し、神殿の扉を閉鎖し、異教の祭壇を築いたと書かれています。二八章二四節です。

アハズは神殿の祭具を集めて粉々に砕き、主の神殿の扉を閉じる一方、エルサレムのあらゆる街角に祭壇を築いた。

息子ヒゼキヤ王は、父が信仰していた異教の祭壇をすべて破壊し、エルサレム神殿の扉を開き、神殿の中を浄化したということが書かれています。二九章三節から五節です。その治世の第一年の第一の月に、ヒゼキヤは主の神殿の扉を開いて修理し、祭司とレビ人を連れて来て、東の広場に集め、言った。「レビ人

よ、聞け。今、自分を聖別し、先祖の神、主の神殿を聖別せよ。聖所から汚れを取り去れ。

このように聖書には、今の自民党には世襲政治家が多くそれが政治の変化を止め、逆戻りまでさせている政治環境からは全く考えられないことが書かれているのです。

それでは日本史の中で政治と宗教はどのような関係を持って来たかを不受不施派が始まった時代まで遡り考えてみたいと思います。

山本書店の創立者である山本七平の本を何冊か読みました。青山学院出身の著者は宗教にとても関心が強く、聖書関連書籍を多く出版しています。著書には「日本教」という独自の概念を取り上げ、明治維新後に始まった天皇制の下で日本という国は日本教という一つの宗教の形を持つようになったという考え方で、共感するところが多いです。

日本史の中で戦国時代には農民の力が強かったと言われています。豊臣秀吉も農民出身でありました。同時に仏教も武装した僧兵を持ち、農民と一緒に各地で一揆などを起こしていたようです。信長や秀吉がその農民や僧兵の武装解除のために行ったのが「刀狩り」です。刀狩りは秀吉の千僧供養から江戸初期の一六一四年まで一九年間続きます。また宗教との関連から見ますと、信長は一五七一年

に延暦寺を焼き討ちし、その後に起きた石山合戦（一五八〇年）では一向宗（浄土真宗）の一揆を圧殺しました。石山とは当時の本願寺の本山があった場所です。その跡に秀吉が建てたのが大阪城です。その意味で大阪城は政治が宗教を抑えた象徴的建物です。

豊臣秀吉は石山合戦の時に本願寺の味方をしていた和歌山の真言宗の総本山根来（ねごろ）寺を一五八五年に焼き討ちします。その二年後には伴天連追放令を出しています。

江戸時代となり一六一二年キリシタン禁止令が出され、一六四〇年には宗門改役を設け、キリシタンではないことを証明する寺請（檀家）制度が始まります。これによって江戸時代を通し仏教のお寺は権力の手先機関となり、宗教の社会的影響力は微力なものとなります。

明治政府は一八六八年に「神仏分離令」を出し、廃仏毀釈、廃仏運動が始まります。そして、その三年後の一八七一年不受不施派とキリシタンの禁止令を解除します。それによって信教の自由の時代が渡来し、聖書でいう神殿の扉が再び開かれたように見えました。同じ年に寺請制度も廃止されますが、その代わりには氏子調べが発令されます。それはお寺の檀家を神社の氏子として登録することです。しかし、この制度は直ぐ後に始まる戸籍制度

によって廃止されます。これらの一連の動きは天皇制、即ち日本教と言える国家体制を作り上げるための一環であったことです。

一八七二年に明治政府は仏教に対して「肉食妻帯自由令」を出します。それまで多くの仏教宗派では僧侶の結婚や肉食を宗派内の条理として来ました。これらのことは信仰上の規約に関する部分で、それを国家権力が指示し、変えることは宗教を無力化する狙いの他ないと思います。その結果、一般のお寺では世襲や私有化が進み、組織としての社会的影響力は非常に弱くなってしまいました。

また政府は一九四〇年に「宗教団本法」を発令し、宗教各団体の単一化を強制し、その中でキリスト教は一九四一年に三五の教派の合同によって日本基督教団が出来上がります。

このように中世から国策によって宗教が政治に対し無力な存在となり、社会に対しても影響力を失って来た歴史を見ました。

最後に今日のメッセージとして、歴代誌下二九章一一節を皆さんにご紹介します。

わが子らよ、今このとき怠けていてはならない。主があなたたちをお選びになったのは、あなたたちが御前に出て主に仕え、主に仕える者として香をたくためである。

（二〇二一年一〇月三十一日証詞より）

すべての人が食べて満腹した

表 宣恵

「全ての人は、生まれながらに平等である」と言われてきましたが、「全ての人は、生まれながらに不平等だ」ということを、最近になって発見してしまいました。運動能力の高い低い、体の大小、どこに生まれたか、戦争中か平和な時代か、経済的に裕福か貧しいか、等です。「親ガチャ」という言葉を聞いたことがありますか？親によって子どもに運・不運があるということ。ガチャポンを引くのと似ている、ということですよ。

歴史的に見ると、一九四五年の敗戦後は、焼け野原でゼロからのスタートでした。みんなが貧しくて、お腹が空いていた時代。

その後、一九六〇年代の高度経済成長期を経て、日本円は一ドル、三六〇円から二四〇円に、そして今は一一〇円台になりました。九〇年代バブル期の頃から外資系企業や銀行までが日本に参入しました。終身雇用から契約社員、派遣社員へと雇用形態も様々に変わって来ました。労働者派遣法の改正により、二千年代には派遣社員が急増。特殊な技能を持った職種のみ派遣が許可されていたものが、「特定の職種以外は全て許可」ということになったからです。二〇〇七年のリーマンショック

で、大勢の派遣労働者が失業、所謂「派遣切り」が行われました。日比谷公園に「派遣村」ができ、この頃から貧富の差がますます激しくなってきました。

二〇一二年大田区に初めて「子ども食堂」が、翌年には豊島区に「要町あさやけ子ども食堂」ができ、ここに見学に行った友人、野の花伝道所牧師の海老澤基嗣さん達と始めたのが「石神井ゆうやけ子ども食堂」です。二〇一四年クリスマスマスのことでした。

二〇一八年の統計では、子どもの七人に一人が貧困の状態にあります。これは、三五人のクラスだと五人くらい「お腹いっぱいご飯が食べられない」子どもが居る、ということですよ。単親家庭では、実に四八%です。

聖書の物語を振り返ってみましょう。五千人が満腹になるというお話です。すぐ後には四千人が満腹になったというお話が出てきます。きっと、イエスの周りでは何度もこういうことが起こったのではないのでしょうか。「これはどういふことなんだろう?」、「みんな、お弁当を持っていたのに隠していたのかも?」、「たくさん食べ物を持っていた人が何人居たのかな?」等、いろいろな想像ができますね。

さて、子ども食堂を始めた当初は、子ども

百円、大人三百円の会費でした。子どもが数名、大人が三〇人くらいだったでしょうか？

そのうちに、ボランティアの方の親戚からお米が届いたり、近くの畑から野菜が、友人から果物やケーキの寄付が届いたりしました。千円札で「お釣りは寄付します」という人も居ます。助成金を申請すると、認められるようになり、他の子ども食堂やフードバンクから余った食材が届くようなネットワークもできました。プレイパークなど他のグループとも、密に情報交換、協力できています。今では子どもは無料、大人も事情があれば無料で食べられるようになりました。

そう、聖書の物語と同じことが、目の前で起こっているのです。ある人はあるだけの会費で無い人は無くても参加できる夕食会です。奇跡のようなことが、現実になったのです。もうすぐ投票日です。ドイツのメルケル首相を見て「政治家が出来ることは、こんなにも大きいのだ」と改めてその大切さを教えられます。同時に「私達が出来ることも、とても大きいのだ」と、子ども食堂を始めてからの日々を思い返して驚いています。月に二回、聖書に出てくる奇跡の物語が、子ども食堂を通して実現できているのですから！

(二〇二一年一〇月一七日証詞より)

当たり前を見直すと、

教会も子ども園ももっとよくなる？

小林 祥人（取手伝道所）

子ども園の礼拝では園児たちに「新型コロナウイルス感染症」って、教えている。ただ「コロナ」は、もともと病名ではないし、それだとノリが軽い。この「軽いノリ」が差別に繋がっていくような気がして、ちよつと危険だとも思っている。それにしても子ども園の敷地内に伝道所がある、ということをつくづく考えさせられる。今は、園児の送迎の際の保護者達にも建物内には立ち入らないよう、お願いしている。この原稿を書いている二週間後にはクリスマス・ページェントをやるのだけれど、それも観覧は「保護者様一名様のみ」に限らせてもらっている。今日の練習では「羊飼ひ」役の男の子がヒツジのぬいぐるみを三つ積み重ねて、その上に馬乗りになつてはしゃいでいた。果たして二週間で完結できるのかな。子どもたちにはなるべく日常の「普通」を味わわせてあげたいのに、一方に立ちふさがる「油断は禁物」という強迫観念みたいなものの中で、どこでもそうだけど、人の安全や健康を守る施設は、なかなか緊張している。

伝道所に話を戻すと、そういう保護者の入

場制限までしている園舎に、週に一回とはいえ、保育とは直接関係ない人間がぞろぞろ入ってくるのか、ということ考えたとき、ちよつぱり気が引けた。感染者数が多かったときは礼拝を休みにした時期もあつたし、礼拝を再開した今でも、礼拝後の「みんなでお茶の時間」は消えてなくなり、かわりに「みんなでお床や椅子を消毒の時間」が、今ではほぼ定番化してしまった。教会員に「心配ならお休みください」と伝え、休んだ方には説教原稿を送付するようにした。どの教会でも行われている対策を、ウチでもやっている。

ところで、こんなことをやって自分たちは何とか納得させているのだけれど、ある近隣の他教派・他教会に通う方が訪ねてきて、こんな相談をしてみたことがある。「自分の教会は感染対策はしていない。換気もしないし人数制限もない。讃美歌は一〜九節まで全部歌う。高齢の自分も含めて、それはさすがに怖いと思う何人かは入口の外で歌うことにしているが、我慢できなくて礼拝出席を諦めることがある。しかし信仰があるから、我々が病気になることはない、と役員などに言われてしまつて…置かれた場所で咲きなさいといわれるから、取手伝道所に転会は考えてないけど、とても悲しい」…こういう話は皆さ

んもいろんなところで聞いていると思うけど、何かやりきれない気持ちになつてくる。「イエス様は何といつても人が生きること大切にされる方です。ご自分と親しい方のいのちをまず守ってください。転会はもちろんお勧めしませんが、どうしても問題があつたら、短期留学のつもりでウチの教会に遊びに来てください」と言つて帰した。これでよかつたか、と今でも思う。

この感染症騒ぎの始まつたあの春子ども園を卒園した子たちは、早いもので来春には小学校三年生になる。その保護者からは「タブレット端末を使った授業が大半を占めていて、あんなものをあれだけ長い時間見ている、こどもの眼は将来どうなるのか心配だ」という声などもあつた。チャットいじめなど、しばしばニュースになるが、子どもの体の健康なんてこれからどうなっていくのか、という心配もある。

こうした一連の騒ぎの中でやむなく中止にしたけど、それがホントは最初からなくてよかったものだと気づかされたものも多い。つまり「これまでの当たり前」を見直すということだ。そういう機会は与えられた。でも「これからの当たり前」のホントに大事なものは何か、伝道所と幼稚園の両方で考える毎日だ。

漢文を読む

神鷹 徳治

私は、高校の教師の時も、大学の教員の時も漢文を教材として使用してきました。国語の分野は、現代国語・古文・漢文ですが、多くの教員は、現代国語を希望します。次に、古文の担当を希望し、漢文を担当する教員はほとんどいません。漢文と云いますと、中国の古典ではないか、我々、日本の学徒の学習する分野ではないと云うのです。なるほど、それらの散文・詩歌には、『史記』・『論語』・『唐詩選』等の中国の古典文学の作品が登場します。それでは、何故、日本では奈良時代以降現在に至るまで、我々日本の学徒は中国の古典作品を学習するのでしょうか。以下、少しく私見を述べてみます。

最も大きな理由は、日本語はそのものが貧弱なのです。『貧弱』と云えば皆さん、一驚されると思いますが、これは事実なのです。以下、具体例を挙げて説明します。

例えば、『みる』という日本語を一例として挙げてみます。漢字を当てて書きますと①見る、②視る、③看る（この他にも『みる』と訓読する漢字はありますが、取敢えず、この三文字に限定して話を進めていきます。）この①②③の漢字は訓読みしますと、いず

れも『みる』と読まれますが、音読みすれば、①は『ケン』、②は『シ』、③は『カン』となります。字体のみならず、漢字音が異なっている、その意味も、又異なっています。

①の『ケン』は目立つものを人が目にとめること。

②の『シ』はまともに視線をむけてみることに。

③の『カン』は手をかざしてみさだめること。

我々日本人は『見』『視』『看』の三字を無造作に『みる』と読みますが、この三字は明確に意味が分かれているのです。日本漢字の特質として一字の漢字に訓と音の二つの読み方がありますが、訓だけでは語彙の世界があまりにも貧弱なのです。この貧弱性を克服するのが音読みであります。この方法によって、漢語の世界が我々日本人の語彙として活用されることになったのではないのでしょうか？

次に、漢文訓読の方法について若干、私見を述べてみます。漢籍の資料、例えば、『史記』を取上げてみます。

『史記』百三十巻は、漢の武帝（前一五六―前八七）が統治していた、前二世紀頃までの歴史書、即ち『史書』であります。とりわけ、その列伝の巻には、個性的人物が活躍しており、あたかも、小説を読むような気持ちになります。何故、そのような深い感銘を

与えられるのでしょうか。それは、著者司馬遷の生涯が、文字通り、波乱万丈の生涯だったからです。

『山月記』の著者としても知られる、中島敦（一九〇九―四二）の『李陵』は、主人公馬遷が、どのような困難に遭遇し、その難問をどのようにして克服していったかが、克明に描かれている名作です。皆様に一読をお勧めいたします。

ところで、中国の漢籍が我が国にもたらされた時期は唐代であり、我が王朝は平安期（前期）の頃です。当時の漢籍（含仏典）資料を、日本側ではどのような方法を用いて読んでいたのでしょうか。既に紙は発明されています（印刷は宋代になってから）。書写された卷子本の原文の上に、ヲコト点等の返り点を加え、直ちに、日本語として理解できるように、工夫を重ねたかと推測されます。

漢文資料は、古代の文献資料だけではありません。鴟外の史伝ものの作品にも、しばしば登場します。私は、就中『洪江抽斎』を評価します。鴟外は、武鑑収集の途上、江戸時代の弘前藩の医官、洪江抽斎なる人物に出会い、彼の経歴を克明に考証しました。さらに、『伊沢蘭軒』、『北条霞亭』等の、漢文資料が正面から登場する名作もあります。

笹渕さん、さようなら！

小池 常隆

笹渕さんが亡くなったという。弱っているとは聞いていたが。賈先生からも前島からも電話があった。ろばの原稿を頼まれた。

百人町教会生みの親だった。笹渕さんについて書くことは一杯あるはずなのに何を書いてよいか。美竹教会を出る時のことが思い出される。二階の集会室で話し合っていた。終わって蕎麦屋の二階に行った。また話し合った。泉谷のこと、教会の前に立ち、警官隊を入れるという話に皆憤った。教会は世俗の世界とは別だと！もう半世紀も前のことだ。先日賈先生と前島や小川和男さんが来た。その話に咲いた。本当にもう半世紀も前なのだ。あの時はみんな若かった。阿蘇が亡くなり、ほとんどの人がいなくなった。

大庭牧師が百人町に来た。あれから俺はどうしていたのだろう。思い起こすのも遠い世界だ。教会の後よく散歩に出向いた。春の日は気持ちよかった。そんなことしか思い浮かばない。かけがえのない人だった。誰でも親身に話を聞いてくれる。誰でもだった。牧師になると聞いた時は泣いた。

我は我 人は人として我が心
聞かせし時に 涙ありけり

その時作った歌だ。

最近物忘れがひどくなった。何が変なのか分からぬが、予定の変更などすぐ忘れてしまう。寂しさがこみ上げる。どうしようもない孤独感。人が恋しい。ヘルパーの人が来るのを待ちわびている。

サウジ、フランス、いろいろ思い浮かべる。アメリカに一〇年もいたというのが夢のよう。友達だったフランクが亡くなったという報告。受けたのはいつのことか。一〇年以上前か。彼と一緒にドイツ、イタリア、イギリスと旅した。

笹渕昭平さんの思い出

尾池 幸

私が某生命保険会社に勤務するようになってから、学生時代山手線から見えた教会に行ってみたくて行って行ったのが美竹教会だった。最初は浅野牧師と平野牧師の説教に迷いながら、多くの先生方に導いていただき、渋谷迄の定期券を買って色々な集會に参加するようになった。当初はキリスト教について知りたいという以外の目的があった訳ではなかった。

そんな折に笹渕さんに誘われて聖書研究会

に参加するようになった。当時笹渕さんは、西武線沿線にお住まいで私はその二ツ三ツ手前の駅に住んでいた。

職場にも青山学院の先輩がいて、社内のある書研究会に誘われた。修養会に参加して、早天祈祷会に出席した時、皆が何か私と違うものを持っている事に気付いた。その時のテキストが遠藤周作の『沈黙』だった。後になって判った事だが、私以外の全員がクリスチャンだった。何故棄教の物語が私の心を動かしたのかと言うと「踏むがいい」と言われた主の憐みの言葉だったと思う。

私はその一年後一九六七年のペンテコステに平野牧師の元で受洗した。

話がそれだが、笹渕さんには公私にわたっているいろいろ相談に乗っていただいた。特に結婚する時と離婚する時に親身になってくださった。私の夫の複雑な生い立ちや家庭の事情を知り様々なアドヴァイスをいただいた。わざわざ自宅迄来てくださり元夫の陰日向を見抜いてご忠告もいただいた。毎年年賀状には安否を気遣ってくださいました。

私の五〇余年の信仰生活において、折に触れて笹渕さんにお世話になった事を心から感謝し、いづみさんとご家族の上になくさめがあります様に願っております。

図書紹介

『生きるための安楽死』

シャボットあかね著（日本評論社）

「安楽死」はギリシア語の「良い死」の翻訳語です。本書の副題も『オランダ・よき死』の現在』です。ところで、「良い死」について考える時、多くの難問に直面します。まず、誰にとつての「良さ」なのか。本人はもう旅立っていますから確認できません。では残された人々が「良い」と思える死と考えていいのでしょうか。これは危険性もはらんでいません。ナチスドイツの「生きるに値しない命」を終わらせることを「良い死」とする考えは、二〇万人以上の知的小および精神障がい者の強制的安楽死につながりました。このような難問に直面しつつも、本人の「良い死」を求め強い願いは現に存在します。社会はその願いにどのように応えることができるのか。本書は、多くの具体例を示しつつ、冷静な筆致でこの難問と格闘するオランダ社会の様子を描いています。本書は八章から成ります。一章から四章までは安楽死についての歴史、制度、法律、国際比較について書かれており現状を理解する助けになります。五章から八章で提示されるのは、オランダ社会が現在取り組んでいる課題と今後の展望です。

日本では「有識者」が作成する指針やガイドラインによって「良き死」が議論され方向性が示されているのに対して、オランダでは社会的な合意を形成しようとする努力が重ね

られています。このことが可能な理由として、家庭医制度が整備されており医師患者関係において信頼関係が築きやすい点、また自己決定を重視するオランダ国民の気質が考えられます。このような違いが出てくるのは、オランダと日本が異なる価値観や生活パターンをもつ社会だからと一般に捉えられることが多いのですが、実は両国は似たような状況にあったと著者は指摘します。戦後、食糧難と闘いながら国の再建に取り組んだこと、一九六〇年代の高度経済成長を両国とも経験し、学生運動、ヒッピー運動、女性解放運動も同時に展開されました。しかし、その後日本が物質的な豊かさの追求に進んだのに対し、オランダは生活の質やそれを支える自己決定権を重視するようになった、といえます。

死をも本人が自分で決定できることだと認めることにより、どのような事態が生じるのか。五章以下、安楽死後の臓器提供、子どもや若者の安楽死、認知症高齢者の安楽死、医療とは独立して実施される安楽死について書かれています。いずれも、今の日本では想像もできないことです。著者はこのような展開を今起きていることとして淡々と記します。

東京で生まれ、アメリカで教育を受け、オランダで暮らす著者のメッセージが読み取れるのは「おわりに」で紹介された熊本県出身の方の話だと私は思いました。人生の終わりを自分のこととして考えるきっかけの書です。

ろばのせなか

二年越しの自粛生活が明けた今年のクリスマス マスを皆さんどのようにお迎えでしょうか。百人町教会では今も対面礼拝は控えています。がネットとズームによる教会生活を休まず続けられたことに感謝しています。

定年後、別の仕事の合間を縫って故郷のお母様を気づかう上田さん、漢文の奥深さを語る神鷹さんも帰省しての介護生活です。母と息子の間に流れる緩やかな時間は貴重です。

不安に満ちた社会にあつて「こども食堂」を通して地域に交わりの輪が広がることを願う妻さん、「こども園」と大人の礼拝の両立に奮闘する小林祥人さんの温かいまなざしに救われる思いがします。

一〇月に笹刈昭平さん、一月には掛井五郎さん、百人町教会の創立に関わり見守り続けてこられたお二人が天に召されました。千葉道代さんのお母様も亡くなりました。ご家族の上に神様の恵みと慰めがありますよう祈ります。体調の悪い中で追悼文を書いて下さった小池常隆さんは、その後回復に向かっていることを報告します。

新しい年に、少しでも希望の光を見出せるよう共に励ましあつていきたいものです。

(榎本 征子)

二三〇号六ページ一段八行目に、古い資料からの引用とはいえ不適切な表現がありました。以下のように訂正します。(…宣教師が戦前から東京のある地域…) (ろば編集委員会)

(空閑 厚樹)